

テーマ：「自立（律）した学生が育つ大学づくり」

（1）背景、問題提起

私達はまず「各々の大学で抱える問題点」について意見交換し、以下の問題点からテーマを導き出す作業を始めた。

- ・学生が履修登録をしない
- ・申請書類などの手続きの締め切りを守らない（期限が過ぎた後に窓口に来る）
- ・職員が学生向けに情報を提供しても、学生が見ていないため意味を成していない
- ・情報を共有できていない

上記問題点から、学生が自ら情報を収集しようとする意識が低い。つまり、情報に対して受け身である（主体性がない）学生が多いのではないかと考えた。このような学生に対するフォロー、育成手段について検討し、「自立（律）した学生が育つ大学づくり」というテーマを導き出した。

また、このテーマから私達が解決すべきこと（課題となるもの）を、以下の3点に絞り、解決案を作成した。

- ・自立（律）した学生が育つために我々はどうするべきか？
- ・主体性のない学生をどのようにフォローするか？
- ・教員、職員、学生（教職学）が三位一体となり、協働して取り組むことができないか？

（2）討議、解決案の作成

課題解決案の作成に取り掛かる前に、自立（律）した学生とはどのような学生であるかを定義するために、ブレーンストーミングやカードを用いて、グループ内で意見を出し合った。その結果、以下の特徴を持つ学生が自立（律）できた学生であると定義し、このような学生が育つ環境を提供できる大学づくりが問題解決になると考え、2つの解決案を考えた。

- ・アイデンティティがある
- ・チャレンジ精神がある
- ・コミュニケーション能力がある
- ・能動的に学生生活を送ることができる
- ・必要な情報を取捨選択できる（情報に流されない）
- ・社会や学校のルール、モラルを守ることができる

①提案（A）キャリア形成科目の設置

学生自身が授業を作ることができるキャリア形成科目を設置する。授業内容は、学生同士のディスカッションを交えることによって授業案を作成する。授業案を教員の前でプレゼンし、完成した内容で実際に授業を進める。

この科目は、1、2年生は必修科目とし、3、4年生は選択科目とする。これは、コミュニケーション能力を向上させ、アイデンティティの構築を補助し、チャレンジ精神を身に着けるきっかけとなる科目であると考えた。

しかし、授業であるため単位修得のみが目的で出席する学生が発生する可能性や、授業を行うことで教員から学生へ情報が与えられるという状況が生まれるため、学生の自主性を妨げてしまう可能性があるなど、デメリットも存在することが分かった。これは、今回のテーマである「主体性のある学生の育成」には繋がらないと判断した。そこで私達は②の解決案を提起する。

②提案 (B) OCT 制度の導入

OCT (On College Training) 制度とは、企業で導入されている OJT 制度とメンター制度を参考に、私達が考えた制度である。

新入生に対して2年生を、2年生には3年生を、3年生には4年生をメンター（世話役）として付ける。メンターに選ばれた上級生は下級生の相談（授業や進路、クラブ、生活面等）に対してフォローする。また、上級生には下級生への支援計画書と事後報告書の作成を義務付ける。

各年度ごとに学籍番号順で10人のグループで区切り、上級生10人、下級生10人で構成する。活動は月1回で、昼休みに行く（初回は新入生オリエンテーション時に行く）。内容は、学生同士（教職員合同の場合も含む）のグループディスカッションや、OB、OG を招いての座談会を開催する。また、アイデンティティの構築を目的とした「アツい話しかしない会」逆に、ネガティブな内容を主とした「サムい話しかしない会」などがアイデアとして挙がった。その他、何かトラブルがあった場合、「駆け込み寺」を設置し、教職員が常にフォローできる状況を整備する。

また、以下の点が期待され、自立（律）した学生の要素を得る機会につながると考える。

・幅広いコミュニティの創造	(コミュニケーション、情報)
・下級生に対する責任感	(情報、ルール・マナー)
・上級生、教職員との交流、マナーアップ	(コミュニケーション、ルール・マナー)
・イベント企画、チームワークの構築	(チャレンジ精神、学生生活)
・交流範囲、人脈の拡大	(情報、アイデンティティ)
・自己開拓	(アイデンティティ、学生生活)

ただし、提案①に比べて学生の自主性に依存するため、制度への参加や、維持に対する強制力の面が乏しい。そのため、参加者にはランチ（弁当）の無料提供、テーブルマナー講座を兼ねたディナースタイルのイベント等で制度のバックアップを検討する。

(3) 成果・結果の評価、まとめ

学年終了時に、この制度を体験した感想、意見、問題点などをアンケートで回答してもらおう。教職員はアンケート結果を参考に、今後どのように改善していくかを検討する。また、自己分析（EQ 検査）を実施する機会を設け、分析結果を教職員からフィードバックを行うことにより、アイデンティティをより深めることができると考える。この制度の導入により、学生は早期から学年・年代を超えたコミュニティを形成し、情報を得ることにより、自ら考え、情報を取捨選択し、行動する力を養えることが期待できる。その結果、単位修得率の up、留年、退学率の down にも繋がるのが期待できる。

以上をまとめると、自立（律）した学生を育成するために提案した OCT 制度の適用により、教職学が三位一体となり協働して物事に取り組むことができる。また、学生が主体的に物事を考え、責任を持つことの重要性を認識することにより、能動的に学生生活を送り、且つ、自立（律）することが可能となる。これは大学の価値やブランド力、競争力の向上に繋がると考えられる。

以上